

## 審査の結果の要旨

氏名田中慎吾

本研究は、看護師の行う退院支援の質を向上することを目指し、退院支援における病棟看護師の退院患者受け入れ先スタッフの状況を想像する認識（視点取得）が、退院支援における連携の実践にどのように影響するのか、また退院支援の質向上の取り組みとして行われてきた出向などの越境経験と退院前カンファレンスなどの退院患者受け入れ先スタッフとの交流機会が視点取得にどのように影響するのかを明らかにすることを目的としたものである。この目的を達成するために、退院支援における病棟看護師の退院患者受け入れ先スタッフへの視点取得の程度を測定するための尺度を開発し、開発した尺度を用いて先行要因である越境経験と交流機会が視点取得を介して退院支援の連携にどのように影響するのかを定量的に検証し、以下の結果を得た。

1. 文献レビューとインタビューから質問項目を作成し、認知インタビューと項目内容妥当性指標による表面妥当性、内容妥当性を検証した尺度原案 20 項目を作成した。東北・関東信越・東海北陸厚生局管内の急性期入院基本料 1 を算定している病院の病棟看護師を対象にしたオンラインアンケート調査から、尺度原案を用いて相手の状況を想像する下位因子 *Imagine-other*（6 項目）と相手の状況に自分を置き換えて想像する下位因子 *Imagine-self*（4 項目）の 2 因子からなる計 10 項目の尺度を作成した。作成した尺度は因子妥当性、構成概念妥当性、内的整合性、時間的安定性が確認された。下位尺度 *Imagine-self* のみ時間的安定性が低く、1 回目調査より 2 回目調査の値が有意に高かった。
2. 尺度開発と同時に実施されたオンラインアンケート調査で得られたデータを用いて構造方程式モデリングを行った結果、転職や出向などの越境経験と退院前カンファレンスなどの退院患者受け入れ先との交流機会は視点取得に完全媒介されて、退院支援における連携を促進すること、越境経験の有無によって交流機会から視点取得、視点取得から退院支援における連携には有意な影響がないことを確認した。また、介護経験の有無、退院支援に関する勉強会への参加などの個人属性は今回のモデルに交絡要因として有意に影響していないことが確認された。

以上、本論文は、退院患者受け入れ先スタッフへの視点取得の程度を測定する尺度を開発したことにより、今後の研究において視点取得を促進する要因の検討を可能とした。また、越境経験と交流機会が退院支援における病棟看護師の退院患者受け入れ先スタッフへ

の視点取得を介して退院支援の連携を促すことを明らかにしたことで、退院支援の質向上のために行われてきた出向事業や退院前カンファレンスなどの取り組みがどのように看護師の認識に影響し退院支援の実践を促進するのかを説明し、受け入れ先スタッフの状況を考えることで退院支援の実践を高められる可能性を提示した。申請者は研究の内容を審査会で報告し、審査委員の質疑に適切に回答した。更に、審査会における審査委員の指摘に沿って、申請者が論文を適切に修正したことが確認された。

よって本論文は博士（保健学）の学位請求論文として合格と認められる。